

第10回 新時代とやまハイスクール構想検討会議 議事概要

1 日 時 令和8年5月25日(月) 14:00~15:30

2 場 所 県庁4階大ホール

3 委員出席者 新田 八朗 廣島 伸一 坪池 宏 大西 ゆかり
黒田 卓 牧田 和樹 松岡 理 伊東 潤一郎
佐伯 真未 品川 祐一郎 白江 日呂雄 杉木 貴文
能作 千春 林 誠一 本江 孝一 松山 朋朗

4 会議の要旨

司会が開会を宣し、知事が挨拶した。

知事挨拶

(知事)

昨年の5月に構想検討会議を設置して以来、今日で10回目になります。

1年間、ハイペースで集中的に検討してきたこと、皆様に改めて感謝申し上げます。年度が変わりましたが、皆様には引き続き委員にご就任いただき、改めて感謝申し上げます。

前回3月の9回目の会議では、1月に取りまとめた新時代とやまHS構想の実施方針に基づいて、第1期校の設置に向けた再構築の考え方、またグローバルHSと未来探求HSの教育内容について、皆様からご意見をいただきました。

今日は、今年度前半までの策定を予定している、第1期校の設置方針の取りまとめに向け、中核となる教育内容の組み合わせや目指す生徒像など、第1期校の学校像について議論を進めていきたいと思えます。

引き続き、「こどもまんなか」の視点で、構想の基本目標である「新時代に適応し、未来を拓く人材の育成」の実現に向けて、忌憚のないご意見・ご提言をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

議事事項

○第1期校の学校像の具体化について

資料に基づき事務局から説明した。

(委員)

今ほどご説明させていただきましたが、第1期校の学校像を具体化したものです。これに関して、皆さまからご質問、ご意見などありましたらお願いします。

(委員)

前の2つの会議から一貫して検討してきたグローバルHS、未来探求HSですが、多様

な学びないしは専門的な学びを深めることのできる高校を、今回、第1期校で設置することは、これまでの一連の議論を踏まえたものであり、非常に望ましいものだと思います。

また、今回ご提案のあったグローバルHSは新田知事の公約でもあり、ぜひ、富山から世界に羽ばたく人材を育てる学校として、特色ある学校づくりをすべきであると思います。

また、人口減少という課題に対応していくために、富山の高校の卒業生が、1人でも多く富山に帰って来て欲しいとも思うのですが、むしろ、このグローバルHSは世界に羽ばたく人材を育てる学校で、そのような学校のある富山で子育てをしたいと子育て世代の皆さんに思っただくことも大事なので、思い切り特化した高校にすべきだと思います。

また、未来探求HSについても、最近、社会的ニーズが一層高まっている情報教育、データサイエンス、AIエージェントの活用が学べると同時に、スポーツや芸術など、部活動を含めて特色ある学びができる学校づくりに加えて、誰1人取り残されない教育、ダイバーシティ、SDGsも前の会議から提唱しておりますが、富山県に住む外国籍の方など、高校から義務教育も含めてもう一度学びたいという多様なニーズに応える学校として、今回、第1期校に今ほどあった学校を設置することが非常に望ましく、これまでの議論を踏まえたものだと思います。

そして、この第1期校を本当に魅力ある高校にすることで、今後の第2期、第3期の再編が進めやすくなるので、本当にとがった、特色ある学校にすべきだと思います。また、今朝の日経新聞にもありましたが、AIエージェントの社会実装が進むと、ブルーカラービリオネアという、これまでになかった社会が現出する未来予想もあるので、第2期、第3期については、今後の検討の余地、多少のバッファを残しておくことも必要だと思います。第1期はまず、これまでの一連の検討成果としてのご提案の内容で望ましいと思います。

(委員)

2点気になるところがあります。まず1点目は、6ページのグローバルの、「身に付けられる資質や能力」の3番目です。「多様性を尊重し、対話を通して新たな価値を創造できる力」とありますが、これは、1番目の課題解決力や探究的思考力に包含されると思ったので、考えていただければと思います。

2点目は、これから学校像を具体化していくプロセスで考えていかなければならないのが、スクールポリシーだと思います。スクールポリシーには、アドミッション、カリキュラム、グラデュエイトという3つのポリシーがありますが、それぞれを明らかにしていくことが大事だと思います。例えば、入試についても、グローバルであれば、当然、中学校を卒業する段階である程度の英語力が求められると思うので、身に付けられる資質や能力の他に、ここにエントリーするためには、これぐらいの力が必要になるといったことを、将来的には学校像に加えていった方がいいと思います。実際に学校が動いていく時に、入試問題などの独自化に関わっていくと思うので、問題提起として、投げかけたいと思います。

(委員)

グローバルHSは、第1期において1校開設予定ということで、第1期校の具体像として6ページに書いてあります。ここの部分が、今、富山県が定めるスクールミッションに繋がるところだと思うのですが、第2期以降に開設されるグローバルHSにも繋がるものなのでしょうか。

富山で、県立高校全部が1つの学校のようなイメージでいくと、グローバルHS同士も連携や共有ができる何かがあればいいと思います。今のところ第1期校は1校だけなので言及はありませんが、何か考えてあるのでしょうか。

(事務局)

例えば、5ページに実施方針で定めた方向性、目指すべき学校像があります。これを、第1期校を検討するにあたり、もう少し具体化の視点も描きながら、第1期はこういう学校にすべきではないかというのが6ページです。まずはこうした学校を設置し、運営していく中で、いろいろと社会の状況が変わっていくこともあると思います。今後、第2期、第3期の学校については、その時点でのいろいろな状況も踏まえながら、どういった学校像にするか検討が必要だと考えています。

(委員)

これまでも議論の中で、いろいろな言葉が出てきましたが、漠然としたイメージしか出ていなかった部分もあったと思います。今日は、かなり具体的なイメージを持つことができ、タイプ別の授業内容、グローバルHSの内容など、こういう授業が行われるのだと明確なイメージを持って、良い資料をいただいたと思います。

具体的なところで、グローバルHSについては、単なる英語力の強化ではなく、英語を通じた探究を目指していくところ。国際バカロレア認定校を目指していくことについては、今までになかった教育だと感じました。これから世界に飛び出していきたい子どもたちにとって、とても魅力的な選択肢になる学校だと感じています。

もう1つの未来探求HSの方ですが、すごくよく練られていると思います。タイプ1とタイプ2で分けられているところに、特徴と期待を感じました。

タイプ1の方が得意なものがもう既にあるって、自分はこうなっていきたいという意思がある子どもたち。タイプ2の方は、まだどのようになっていきたいのか自分にはわからないけれども、それを高校でいろいろな人と一緒に探していきたい子どもたち。そういった多様な子どもたちを受け入れる土壌になっていく学校ということで、すごく魅力を感じています。特徴的な「余白の時間」という言葉がありましたが、保護者からすると、余白時間が多いと子どもは大丈夫かなと、若干心配になる部分もあるのですが、得意なことがある子どもであれば有効に使えるし、これから見つけていく子どもであれば、この資料を読んでいる限りでは、いろいろなサポートを受けられるということで、充実した時間を持つのではないかと思います。これだけ壮大な計画なので、まだまだ保護者にはわかりづらいところがあります。どんな仕組みなのかその言葉も難しいですし、不安な部分もいっぱいあります。これらの不安を払拭して、安心して学校に送り出していけるように、丁寧な説明をこれからしていただけたらありがたいと思います。それは、保護者だけ

でなく、もちろん生徒にも十分な情報をいただきたいし、中学校や高校の先生にもよく理解して導いていただけたらと思います。

(委員)

第1期校の具体像については、これまでの議論を踏まえたものになっており、この方向性でいいのではないかと考えています。資料が大変わかりやすく、イメージしやすいものになっており、よくまとめられていると感じました。

具体的な取り組み例が示されていますが、今後、様々な角度から検討していく時には、学校の施設設備によってできることは違うと思いますので、その辺りは、学校の実態に即して、新たな検討が必要になると思います。そういう意味では、今後、具体的にどのような教育課程を編成していくのか検討していくこととなりますが、その辺りは、今までの議論を踏まえて、しっかりと実現に向けて取り組んでもらいたいと感じています。

(委員)

教育が急激に変わらないといけないというメッセージを感じるのは、今までで一番大きいと感じます。それは、国の高校教育改革のメッセージを見ていてもそうです。

今年は、小中学校の次期学習指導要領の告示の年です。この前、文部科学省に行きましたら、時代の流れがすごく大きいため、過去にない大掛かりなメッセージを出したいと聞きました。それらや本県の高校改革の目標を見ても、ものすごく大きな、非常にスピード感がある早い動きをしていると感じます。

一方で、最近、学校や保護者の方、地域の方々の会議に呼ばれることがあるのですが、がっかりすることが多々あります。富山弁で言えば「今度、どことどこがくっついて、どうなんがけ」とか、「地元の学校なくなったら困るがいけど。高校どうすればいいがけ」このような話をよくされるのです。それを聞いて、実は内心悲しいと思うのです。というのは、確かに過去2度の大きな改革は、例えば、学校の適正規模のこと、いわゆる再編統合のこと、そんなことが前面に出されたこともありました。本当はそうではなかったのですが。今回は、新しい時代を過ごす子どもたちに、どんな教育が必要なのかをずっと示しています。すべての県立高校が県全体で1つの大きな学校で、それをどう再構築するか、県立高校をどう作っていくかが大きな柱であって、「ここからここをくっつけてどうするんだ」といった議論だけでは上がってほしくないと思っています。

2つ目に、学校現場で先生方から、「学校の改革は待ったなし」で、「このまま放っておいたらだめだ」という声を非常に多く聞きます。社会の流れはものすごく大きく速いです。その中で、この目前に控えた第1期の再編は、第2期、第3期に非常に大きな影響を与えます。丁寧な説明と、何のためにやるのか、誰のためにやっていくのかを、今一度、多くの方々にきちんと伝えながら、待ったなしの改革を進めていただきたいと思います。

(委員)

グローバルHSの資料を読ませていただいて、非常に良い資料になっていると思いました。

海外の人と商談をする時に、やはりふるさとの理解というのは、ものすごく大事だと思

います。打ち解け合う時には、やっぱり地元の話をするんですね。

海外のマーケットの中でも、受けるものや私たちが強みとして打ち出せるものをわかるためには、自分たちのふるさとをしっかりと理解しないといけないので、ふるさとの理解を深め、郷土への愛着や誇り、誇れるものが何であるかときちんと理解することは、今後海外で活躍する人材にとって必要だと思います。そういったことを資料に書いていただいているのは、非常に好感が持てます。

○第1期校の設置について（非公開）

進行より、設置要綱第5条第3項、1号2号の規定に基づき、以後の会議を非公開とすることを委員に諮ったところ、異議はなく、以後の会議は非公開で行われた。

5 閉会

15時30分、司会が閉会を宣した。